事後評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会　　平成２３年６月３０日（木）

研究課題	自然公園内における湖沼の水質の向上に関する研究
研究期間	平成２０年度～２２年度

評価項目	平均点
1 研究課題選定の妥当性	3.6
2 目標の達成度	2.6
3 研究成果の活用及び実用化の可能性	3.2
4 今後の発展性	3.6
5 総合評点	3.3

本研究は、その浄化手法においても様々な規制や制限の有る国立公園内の湖沼において、出来るだけ環境負荷を減らすために、環境中に生育・生息する生物を利用する方法で水質浄化を目指すものであり、自然環境を基盤にした観光立県、さらには世界遺産の指定を目指している本県にとって、きわめて意義のある研究課題である。目標達成のために、水質浄化を試みる水域の生態系基礎調査（生育・生息生物の調査）を行うと共に、セキショウモとタテボシガイを現場水域に植栽・移入し、水質浄化効果の検証を試みている。

生態系基礎調査ならびに実験室等で行った基礎研究は一定の成果を上げている。また、水草の刈り取りによってどれだけのリンや窒素を水域から除去できるかを定量的に示したことは評価できる。

しかしながら、汚染物質（窒素やリン）の循環における各生物の役割や生物の相互関係に対する視点が不足していたために、網羅的な成果の記載にとどまっており、生物の移植･移入による湖沼の水質浄化については植栽量の問題もあり成功しているとは判断できず、目標を達成したとは言えない。

重要なテーマであるので、今後は、今回の研究成果や経験を活かしつつ、水質に影響する要因を十分に把握し、適切な方法を用いて成果を上げてもらいたい。